

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年4月14日
【四半期会計期間】	第64期第2四半期（自平成25年12月1日至平成26年2月28日）
【会社名】	株式会社文教堂グループホールディングス
【英訳名】	BUNKYODO GROUP HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 嶋崎 富士雄
【本店の所在の場所】	神奈川県川崎市高津区久本三丁目3番17号
【電話番号】	044(811)0118
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗像 光英
【最寄りの連絡場所】	神奈川県川崎市高津区久本三丁目3番17号
【電話番号】	044(811)0118
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗像 光英
【縦覧に供する場所】	株式会社 東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第63期 第2四半期連結 累計期間	第64期 第2四半期連結 累計期間	第63期
会計期間	自平成24年9月1日 至平成25年2月28日	自平成25年9月1日 至平成26年2月28日	自平成24年9月1日 至平成25年8月31日
売上高(千円)	17,512,887	16,684,044	34,608,003
経常利益又は経常損失(千円)	22,209	57,503	17,159
四半期(当期)純損失() (千円)	168,485	119,763	289,351
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	148,454	121,995	240,867
純資産額(千円)	2,317,627	2,026,089	2,225,214
総資産額(千円)	25,095,464	25,900,771	25,522,804
1株当たり四半期(当期)純損失 金額()(円)	12.29	8.77	21.17
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	8.68	7.59	8.16
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	741,569	1,526,389	897,295
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	39,775	174,815	87,888
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	517,734	1,379,645	398,294
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	1,176,072	1,002,014	1,323,573

回次	第63期 第2四半期連結 会計期間	第64期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年12月1日 至平成25年2月28日	自平成25年12月1日 至平成26年2月28日
1株当たり四半期純損失金額 ()(円)	5.68	0.27

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等が含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、景気回復基調が続くことが期待されるものの、海外景気に対する不安により、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。又、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要及び、その反動も見込まれております。

このような状況下において、当社グループにおきましては、雑誌を購入すると、購入内容の雑誌がスマートフォン、タブレット等で、無料でデータを閲覧できるサービス「空飛ぶ本棚」をスタートさせました。このサービスは、各出版社の協力を得ながら、雑誌の増売の強力な武器にすべく取組みを開始させ、「空飛ぶ本棚」の対象雑誌の販売強化を進めてまいります。

また、当社オリジナル特典の配布等による予約販売や、顧客への情報提供を強化することにより、新刊書籍の増売を図るとともに、店舗運営の効率強化による経費の削減に努めてまいりました。

新規出店及びリニューアルにつきましても積極的に取組み、品揃えを強化することによって、集客力及び収益性の向上を図ってまいりました。新規店は、アニメガ町田店、アニメガ新宿アルタ店、河辺とうきゅう店、の3店舗を出店いたしました。また、横浜北山田店、まるひろ南浦和店、西台店、大船モール店、アニメガ静岡109店の5店舗のリニューアルを行いました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は16,684百万円（前年同四半期比4.7%減）、営業損失は71百万円（前年同四半期は営業利益4百万円）、経常損失は57百万円（前年同四半期は経常利益22百万円）、四半期純損失は119百万円（前年同四半期は四半期純損失168百万円）となりました。

（2）財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は25,900百万円となり、前連結会計年度末に比べて377百万円増加いたしました。主な要因は、商品が969百万円増加した一方、現金及び預金が371百万円、受取手形及び売掛金が92百万円、長期貸付金が21百万円、差入保証金が18百万円、繰延税金資産が60百万円減少したことなどによるものです。

負債は23,874百万円となり、前連結会計年度末に比べて577百万円増加いたしました。主な要因は、長期借入金が1,442百万円、社債が510百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が660百万円、短期借入金が481百万円減少したことなどによるものです。

純資産は2,026百万円となり、前連結会計年度末に比べて199百万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金が119百万円減少したことなどによるものです。

（3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末に比べて321百万円減少し1,002百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は主に、税金等調整前四半期純損失が57百万円、たな卸資産の増加額967百万円、仕入債務の減少額660百万円の要因により使用しました資金は1,526百万円（前年同期は741百万円の収入）となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は主に、新規出店等による有形固定資産の取得による支出118百万円、子会社株式の取得による支出68百万円、保証金の差入による支出55百万円、保証金の回収による収入64百万円等の要因により使用しました資金は174百万円（前年同期は39百万円の収入）となりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は主に、短期借入金の純減額481百万円、長期借入金の借入による収入3,150百万円、長期借入金の返済による支出1,707百万円、社債の発行による収入842百万円、社債の償還による支出340百万円、リース債務の返済による支出69百万円等の要因により得られた資金は1,379百万円（前年同期は517百万円の支出）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,448,000
A種類株式	300,000
B種類株式	300,000
C種類株式	300,000
D種類株式	300,000
E種類株式	300,000
F種類株式	300,000
G種類株式	300,000
H種類株式	300,000
I種類株式	300,000
J種類株式	300,000
計	20,448,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年2月28日)	提出日現在発行数(株) (平成26年4月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	14,004,715	14,004,715	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	権利内容に制限の無い標準となる株式 (注1)
A種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
B種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
C種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
D種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
E種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
F種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
G種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
H種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
I種類株式	200,000	200,000	非上場	(注1) (注2)
J種類株式	212,000	212,000	非上場	(注1) (注2)
計	16,016,715	16,016,715	-	-

(注) 1. 当社は、資金調達について多様化を図り柔軟かつ機動的に行うために、異なる内容の株式として普通株式及び複数の種類株式を発行しております。単元株式数は、普通株式及び種類株式のそれぞれにつき100株であります。

2. 種類株式の内容は次のとおりであります。

(1) 発行株式の種類

株式会社文教堂グループホールディングス第1回A種類株式、第1回B種類株式、第1回C種類株式、第1回D種類株式、第1回E種類株式、第1回F種類株式、第1回G種類株式、第1回H種類株式、第1回I種類株式、第1回J種類株式(以下、これらを総称して「本件種類株式」といい、それぞれの種類株式を「各種類株式」という。)

(2) 剰余金の配当

優先配当

当会社は、定款第44条に定める期末の剰余金の配当を行うときは、当該配当の基準日の最終の株主名簿に記載または記録された本件種類株式を有する株主（以下「本種類株主」という。）および本件種類株式の登録株式質権者（以下「本種類登録株式質権者」という。）に対して、普通株式を有する株主（以下「普通株主」という。）および普通株式の登録株式質権者（以下「普通登録株式質権者」という。）に先立ち、剰余金の配当を行う。ただし、すでに当該事業年度に属する日を基準日とする優先配当をしたときは、その額を控除した額とする。

優先配当の額

本件種類株式1株当たりの優先配当金の額は、当該剰余金の配当の基準日の属する事業年度毎に、本件種類株式1株当たりの払込金額に対し、下記の年率（以下「優先配当年率」という。）を乗じて算出された金額とする。

優先配当金の額は、円単位未満小数第4位を四捨五入した額とする。

優先配当年率は平成20年12月1日以降次回の年率修正日（下記に定義される。）の前日までの各事業年度について、下記算式により算出される年率とする。

優先配当年率 = 日本円TIBOR（6ヶ月物） + 0.5%

優先配当年率は、%未満小数第4位まで算出し、その小数第4位を四捨五入する。

「年率修正日」は、平成21年9月1日以降の毎年9月1日とする。当日が銀行休業日の場合は、前営業日を年率修正日とする。

「日本円TIBOR（6ヶ月物）」は、平成20年12月1日または各年率修正日（当日が銀行休業日の場合は前営業日）の午前11時における日本円6ヶ月物トーキョー・インター・バンク・オファード・レートとして全国銀行協会によって公表される数値を指すものとし、平成20年12月1日または各年率修正日に日本円6ヶ月物トーキョー・インター・バンク・オファード・レートが公表されない場合、これに代えて、同日（当日がロンドンにおける銀行休業日の場合は前営業日）ロンドン時間午前11時にスクリーン・ページに表示されるロンドン銀行間市場出し手レート（ユーロ円LIBOR 6ヶ月物（360日ベース））として英国銀行協会（BBA）によって公表される数値またはこれに準ずるものと認められるものを用いるものとする。

累積条項

ある事業年度において本種類株主および本種類登録株式質権者に対し、優先配当金の一部または全部が支払われないときは、その不足額を翌事業年度以降に累積し、累積した不足額（以下「種類株式累積未払配当金」という。）については、普通株主または普通登録株式質権者および本種類株主または本種類登録株式質権者に対する剰余金の配当に先立ち、本種類株主または本種類登録株式質権者に支払う。

非参加条項

本種類株主または本種類登録株式質権者に対しては、優先配当金を超えて配当は行わない。

(3) 残余財産の分配

本種類株主または本種類登録株式質権者に対しては、残余財産の分配は行わない。

(4) 議決権

本種類株主は、株主総会において、議決権を有しない。

(5) 種類株主総会の決議

当会社が、会社法第322条第1項各号にあげる行為をする場合には、法令または定款に別段の定めがある場合を除き、種類株主総会の決議を要しない。

(6) 株式の分割または併合、募集株式の割当を受ける権利等

当会社は、法令に別段の定めがある場合を除き、本件種類株式について株式の併合または分割を行わない。

当会社は、本種類株主に対し、株式無償割当または新株予約権の無償割当は行わない。

当会社は、本種類株主に対し、募集株式の割当を受ける権利または募集新株予約権の割当を受ける権利を与えない。

(7) 取得条項

当会社は、本件種類株式の発行後に取締役会の決議で定める日（以下「取得日」という。）をもって、本種類株主および本種類登録株式質権者の意思にかかわらず、いつでも種類株式の全部または一部を、本件種類株式1株につき348円に、優先配当金の額を取得日の属する事業年度の初日（同日含む。）から取得日の前日（同日含む。）までの日数で日割り計算した額（円位未満小数第4位まで算出し、その小数第4位を四捨五入する。）を加算した額の金銭の交付と引き換えに取得することができる。一部取得をするときは、直前期末の本件種類株主名簿に記載または記録された保有株式数による比例配分とする。

(8) 対価を金銭とする取得請求権

本種類株主は、当会社に対して、対価を金銭（以下、本件種類株式の全部または一部を取得し、これと引き換えに金銭を交付することを「償還」という。）として、下記に定める期間において、当会社の前事業年度の分配可能額の二分の一相当額を、償還請求のあった日が属する事業年度における償還の上限として、本種類株主の有する本件種類株式を取得することを請求することができるものとし、当会社は当該償還請求のあった日から1ヶ月以内に、法令の定めに従い償還手続きを行うものとする。

取得請求をすることができる期間

本種類株主が当会社に対して、前記に定める請求をすることができる期間は、次のとおりとする。

- A種類株式 平成25年12月1日以降
- B種類株式 平成26年12月1日以降
- C種類株式 平成27年12月1日以降
- D種類株式 平成28年12月1日以降
- E種類株式 平成29年12月1日以降
- F種類株式 平成30年12月1日以降
- G種類株式 平成31年12月1日以降
- H種類株式 平成32年12月1日以降
- I種類株式 平成33年12月1日以降
- J種類株式 平成34年12月1日以降

第1回各種類株式1株を取得するのと引換えに当該株主に交付する財産の内容および額

各種類株式1株につき金348円に、優先配当金の額を償還日の属する事業年度の初日（同日含む。）から償還日の前日（同日含む。）までの日数で日割り計算した額（円位未満小数第4位まで算出し、その小数第4位を四捨五入する。）を加算した額ならびに種類株式累積未払配当金相当額の合計額を加算した額とする。

(9) 消却

当会社は、法令の定めに従い、本件種類株式の全部または一部を買入れ、これを消却することができる。

(10) 譲渡制限

本件種類株式を譲渡するには、取締役会の承認を受けなければならない。

(11) 会社法322条第2項に規定する定款の定めの有無

会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(12) 議決権を有しないこととしている理由

資本増強にあたり、既存の株主への影響を考慮した為であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年12月1日～ 平成26年2月28日	-	16,016,715	-	2,035,538	-	3,076,788

(6)【大株主の状況】

平成26年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
大日本印刷株式会社	東京都新宿区市谷加賀町1-1-1	5,000	31.22
株式会社トーハン	東京都新宿区東五軒町6-24	2,514	15.70
株式会社 Junk 堂書店	兵庫県神戸市中央区三宮町1-6-18	2,247	14.03
フジディア有限会社	川崎市高津区下作延1923-21	553	3.46
株式会社 K A D O K A W A	東京都千代田区富士見2-13-3	377	2.35
株式会社ゲオホールディングス	愛知県名古屋市中区富士見町8-8	280	1.75
文教堂従業員持株会	川崎市高津区久本3-3-17	247	1.55
株式会社文芸社	東京都新宿区西早稲田3-13-1	210	1.31
フジディアインターナショナル有限会社	川崎市高津区下作延1923-21	200	1.25
株式会社アズール	川崎市高津区久地1-48-3	190	1.19
計	-	11,819	73.80

なお、所有株式に係る議決権の個数の多い順上位10名は、以下のとおりであります。

平成26年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権 に対する所有議 決権数の割合 (%)
大日本印刷株式会社	東京都新宿区市谷加賀町1-1-1	50,000	35.78
株式会社 Junk 堂書店	兵庫県神戸市中央区三宮町1-6-18	22,470	16.08
フジディア有限会社	川崎市高津区下作延1923-21	5,539	3.96
株式会社トーハン	東京都新宿区東五軒町6-24	5,020	3.59
株式会社 K A D O K A W A	東京都千代田区富士見2-13-3	3,770	2.70
株式会社ゲオホールディングス	愛知県名古屋市中区富士見町8-8	2,800	2.00
文教堂従業員持株会	川崎市高津区久本3-3-17	2,475	1.77
株式会社文芸社	東京都新宿区西早稲田3-13-1	2,100	1.50
フジディアインターナショナル有限会社	川崎市高津区下作延1923-21	2,000	1.43
株式会社アズール	川崎市高津区久地1-48-3	1,905	1.36
計	-	98,079	70.18

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	第1回A種類株式 200,000 第1回B種類株式 200,000 第1回C種類株式 200,000 第1回D種類株式 200,000 第1回E種類株式 200,000 第1回F種類株式 200,000 第1回G種類株式 200,000 第1回H種類株式 200,000 第1回I種類株式 200,000 第1回J種類株式 212,000	-	「1. 株式等の状況(1)株式の総数等発行済株式」に記載のとおりであります。
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 27,900	-	「1. 株式等の状況(1)株式の総数等発行済株式」に記載のとおりであります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,975,800	139,758	同上
単元未満株式	普通株式 1,015	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	16,016,715	-	-
総株主の議決権	-	139,758	-

【自己株式等】

平成26年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社文教堂グループホールディングス	川崎市高津区久本3-3-17	27,900	-	27,900	0.17
計	-	27,900	-	27,900	0.17

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年12月1日から平成26年2月28日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年9月1日から平成26年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表について海南監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,489,069	1,117,484
受取手形及び売掛金	1,086,343	993,740
商品	13,145,063	14,114,807
貯蔵品	12,538	10,760
繰延税金資産	35,979	20,624
1年内回収予定の長期貸付金	52,053	48,213
その他	372,066	367,219
流動資産合計	16,193,114	16,672,850
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	853,911	839,535
土地	2,740,444	2,740,444
その他(純額)	684,573	688,199
有形固定資産合計	4,278,928	4,268,179
無形固定資産		
リース資産	17,966	13,066
ソフトウェア	9,334	17,305
電話加入権	32,478	32,478
無形固定資産合計	59,779	62,850
投資その他の資産		
投資有価証券	256,969	263,186
長期貸付金	698,171	676,863
差入保証金	3,440,693	3,421,799
繰延税金資産	406,630	361,891
長期未収入金	261,836	253,994
その他	163,114	147,755
貸倒引当金	255,647	251,757
投資その他の資産合計	4,971,768	4,873,734
固定資産合計	9,310,476	9,204,764
繰延資産	19,212	23,157
資産合計	25,522,804	25,900,771

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,169,584	6,508,923
短期借入金	2,555,000	2,074,000
1年内返済予定の長期借入金	2,962,540	3,513,756
1年内償還予定の社債	680,000	850,000
賞与引当金	14,240	13,520
その他	894,026	719,257
流動負債合計	14,275,391	13,679,457
固定負債		
社債	1,460,000	1,800,000
長期借入金	6,162,062	7,053,019
退職給付引当金	721,185	718,923
繰延税金負債	185,413	183,327
その他	493,537	439,955
固定負債合計	9,022,198	10,195,225
負債合計	23,297,590	23,874,682
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,035,538	2,035,538
資本剰余金	3,076,788	3,076,788
利益剰余金	3,024,328	3,144,091
自己株式	18,215	18,215
株主資本合計	2,069,782	1,950,019
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,428	16,435
その他の包括利益累計額合計	12,428	16,435
新株予約権	16,428	16,428
少数株主持分	126,575	43,207
純資産合計	2,225,214	2,026,089
負債純資産合計	25,522,804	25,900,771

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
売上高	17,512,887	16,684,044
売上原価	13,124,246	12,463,053
売上総利益	4,388,640	4,220,991
販売費及び一般管理費	4,384,408	4,292,920
営業利益又は営業損失 ()	4,232	71,929
営業外収益		
受取利息	12,918	9,222
受取配当金	1,150	712
受取手数料	18,996	11,692
受取家賃	43,414	38,849
情報提供料収入	31,448	31,457
その他	13,560	17,152
営業外収益合計	121,489	109,085
営業外費用		
支払利息	82,342	77,108
新株発行費	863	-
その他	20,306	17,551
営業外費用合計	103,512	94,659
経常利益又は経常損失 ()	22,209	57,503
特別利益		
負ののれん発生益	-	8,329
特別利益合計	-	8,329
特別損失		
固定資産除却損	17,131	8,715
減損損失	9,288	-
特別損失合計	26,419	8,715
税金等調整前四半期純損失 ()	4,210	57,889
法人税、住民税及び事業税	22,122	12,315
法人税等調整額	136,579	55,796
法人税等合計	158,701	68,112
少数株主損益調整前四半期純損失 ()	162,911	126,002
少数株主利益又は少数株主損失 ()	5,573	6,238
四半期純損失 ()	168,485	119,763

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	162,911	126,002
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,457	4,006
その他の包括利益合計	14,457	4,006
四半期包括利益	148,454	121,995
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	154,027	115,756
少数株主に係る四半期包括利益	5,573	6,238

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	4,210	57,889
有形固定資産償却費	119,822	143,829
無形固定資産償却費	38,305	8,784
減損損失	9,288	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,840	3,890
賞与引当金の増減額(は減少)	7,160	720
退職給付引当金の増減額(は減少)	7,473	2,261
ポイント引当金の増減額(は減少)	332	3,104
受取利息及び受取配当金	14,069	9,934
支払利息	82,342	77,108
新株発行費償却	863	-
社債発行費償却	3,216	4,048
有形固定資産除却損	17,131	8,715
売上債権の増減額(は増加)	14,318	92,603
長期未収入金の増減額(は増加)	393,740	7,842
たな卸資産の増減額(は増加)	359,077	967,965
仕入債務の増減額(は減少)	492,477	660,661
その他の流動負債の増減額(は減少)	33,840	86,307
その他	82,241	25,971
小計	838,690	1,423,831
利息及び配当金の受取額	14,064	9,930
利息の支払額	80,016	76,208
法人税等の支払額	31,168	36,279
営業活動によるキャッシュ・フロー	741,569	1,526,389
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	5
有形固定資産の取得による支出	84,119	118,599
無形固定資産の取得による支出	800	11,855
有形固定資産の除却による支出	10,046	6,962
子会社株式の取得による支出	-	68,800
長期貸付金の回収による収入	24,941	25,148
長期前払費用の取得による支出	23,049	2,198
差入保証金の差入による支出	55,972	55,373
差入保証金の回収による収入	189,295	64,371
その他	473	541
投資活動によるキャッシュ・フロー	39,775	174,815

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	2,245,000	481,000
割賦債務の返済による支出	25,997	13,966
長期借入れによる収入	3,090,000	3,150,000
長期借入金の返済による支出	1,489,127	1,707,827
社債の発行による収入	496,160	842,006
社債の償還による支出	290,000	340,000
その他の支出	53,770	69,566
財務活動によるキャッシュ・フロー	517,734	1,379,645
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	263,611	321,558
現金及び現金同等物の期首残高	912,461	1,323,573
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,176,072	1,002,014

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
賃借料	1,417,369千円	1,410,683千円
給料手当	794,749	779,441
雑給	756,841	718,310
賞与引当金繰入額	41,790	39,639
退職給付費用	27,039	24,065

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
現金及び預金勘定	1,291,526千円	1,117,484千円
預入期間が3か月を超える定期預金	115,453	115,470
現金及び現金同等物	1,176,072	1,002,014

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社グループの報告セグメントは、販売業及び販売受託業であります。販売受託業の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成26年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社グループの報告セグメントは、販売業及び販売受託業であります。販売受託業の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(金融商品関係)

前連結会計年度末(平成25年8月31日)及び当第2四半期連結会計期間末(平成26年2月28日)

連結貸借対照表計上額又は四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
(1) 1株当たり四半期純損失金額()	12円29銭	8円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	168,485	119,763
普通株主に帰属しない金額(千円)	3,228	2,874
(うちA種類株式の累積配当額)	320	285
(うちB種類株式の累積配当額)	320	285
(うちC種類株式の累積配当額)	320	285
(うちD種類株式の累積配当額)	320	285
(うちE種類株式の累積配当額)	320	285
(うちF種類株式の累積配当額)	320	285
(うちG種類株式の累積配当額)	320	285
(うちH種類株式の累積配当額)	320	285
(うちI種類株式の累積配当額)	320	285
(うちJ種類株式の累積配当額)	340	302
普通株式に係る四半期純損失()(千円)	171,713	122,637
普通株式の期中平均株式数(株)	13,976,802	13,976,802
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純

損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年4月11日

株式会社文教堂グループホールディングス

取締役会 御中

海南監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 溝口 俊一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 秋葉 陽 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社文教堂グループホールディングスの平成25年9月1日から平成26年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年12月1日から平成26年2月28日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年9月1日から平成26年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手續その他の四半期レビュー手續が実施される。四半期レビュー手續は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手續である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社文教堂グループホールディングス及び連結子会社の平成26年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれていません。